

仕合わせの和



H. 28. 11. 1
(毎月1日発行)

お台場って何？

住職 谷川寛俊

去る十月十七日〜十九日の三日間、総本山身延山久遠寺（くおんじ）に参拝して来ました。真成寺をはじめ、全国に約五百のお寺の親戚関係（法縁関係）にあたる寺院が一同に集結し、法縁の開祖・妙心院日叡上人の第三百五十遠忌記念大法要が厳修されたのです。

誠に盛大で、厳かな大法要に、参列でき感動致しました。翌日は伊豆方面にて懇親を深め、観光スポットを巡り、地元葦山出身の**※名代官**、江川太郎左衛門英龍（ひでたつ）の生家に参加しました。現在、国の重要文化財に指定されており、百六十年経過した当時のままの佇まいに驚嘆しました。現在の当主は十六代目ですが、お仕事の都合で東京に在住されており、毎年お盆になると、家族揃ってご先祖の墓参りに欠かさずお

見えになるといふ厳格な方だそうです。仏間を拝見すると、十五代目までの大きなお位牌が別の段に設けられており、仏壇も昔のままで一際大きく、その中央に大きな御厨子（おずし）があり、その中には、御本尊と日蓮聖人が祀られています。普段当主は東京に在住ですから、任んでいる人はおりませんが毎月のご命日には菩提寺よりお参りに来られるとのことでした。

※名代官：現在の市長、警察署長、税務署長、裁判官などを一手に担う役目の人を指します。

ところで、この信仰篤き葦山代官、江川太郎左衛門英龍という人物は、いかなる人だったのかご紹介します。

テレビ局のビルや高層マンションや、様々なお店が建ち並ぶ、東京お台場地区は、一年を通じて、数多くの人々が訪れる都内有数の観光スポットですが、実はそのお台場と葦山（現・伊豆の国市）出身の名代官「江川英龍」との間には、とても深い関係があったのです。嘉永六年（一八五三）、四艘（そう）の黒船を率いて、アメリカのペリーが来航。

「仕合わせの和」
と打ち込んで頂ければ、ホームページにつながります。

編集・発行
玉蓮山 真成 寺
編集部 谷川久仁子
TEL・FAX 0765-22-2268
携帯 **080-3744-2523**
こちらの番号でもお寺につながります。

武力を背景として日本に開国を要求しました。当時、それに対抗するだけの武力を持たなかった日本は、急いで防衛策を講じる必要に迫られます。そこで内海（今の東京湾）に12の人口島（実際に完成したのは六島）を築き、

沢山の砲台を備え付けることになりました。これが「台場」です。つまり台場とは、外国の軍艦から江戸の町を守る為の砲台に他なりません。そして台場の設計から完成までの総指揮に当たったのがこの人、葦山代官江川太郎左衛門英龍（通称担庵）だったのです。これらの台場は、將軍の命令によってつくられたので、敬意を表すため、「お台場」と呼ばれました。その呼び方が現代にも地名として残っているのです。完成した台場は五〜六年前に世界遺産にも登録された、「葦山の反射炉で作られた鉄製の砲台」が備えられたのです。英龍はオランダの築城技術書などを参

考にして、江戸時代末期としては画期的な西洋式の砦として台場を設計したのです。

台場は海底に打ち込まれた木の杭（くい）を基礎とし、その間を土砂や石で埋め、更にも上に石垣を積みむという方法で作られました。クレーンのような大型重機などのない時代、1つが野球場のグラウンドほどもある台場の工事は、始めから終わりまで全て人力で行われたのでした。昭和三十（一九五五）年以降、東京湾の埋め立てと開発が急ピッチで進む中で、それぞれの台場は埋め立て地の中に埋没したり、船の航路を確保するために撤去されたりして、姿を消していききました。

現在は、第三台場と第六台場の二つだけが史跡として保存されているとのことです。つまり「お台場」とは、大砲を乗せる砲台のことだったので

